

景況実感調査(2017年3月)特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんのコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

[お断り]毎月のコメントはあくまで個々の“生の声”です。業界全体の標準的見解とは、若干異なる場合もあります。また、不適当な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載しておりません。

薄板・表面处理鋼板

- ① 年度末となり、決算月ながら商況は振るわず、期末の在庫圧縮より玉の確保が優先課題となるはずだが、年初の仮需の影響か電話の数も少ない。内外装の関連資材である石膏ボードの今期の出荷予測が前期比 95%とのことで、実需の出現は来春から急増とのメーカーコメントあり。軽量下地材メーカーはそろって 20%以上の値上げがアナウンスされており、流通窓口は実需不足、玉不足下の仕入れ高という三重苦での商売となっている。中国の市況下落も気掛かりだ。
- ② 国内外ともに主要ミルの定修もあり、供給のタイトな状況が続きそうであるが、中国市況の下落、原料炭価格の下落といった不安要素もあり、輸入材の動向は注視していく必要がある。
- ③ 価格は前年に比べて 10%上昇。熱延鋼板の在庫減。

中板

- ① 依然としてメーカーからの母材入荷は低調であり、航路の再値上げ表明もある中、市中では市況の高騰があっても不思議ではないにもかかわらず、流通量・市況ともに一服感が漂っている。自動車支給価格の大幅な改定を支えとして、コイルセンターもユーザー価格転嫁に努めているが、値上げが大幅なだけに再転嫁にも限界があるとの懸念も出始めており、新たなノルマをどう乗り越えてゆくべきか悩ましいところである。

厚板

- ① 荷動きが悪く、価格転嫁がなかなか厳しい。新年度に期待したい。

开形鋼

- ① 市況は上伸する一方だが、荷動きは伸びるどころか低下傾向にあり、厳しい状況が続いている。例年 4~6 月期は一年で一番荷動きの悪い時期だが、何とか乗り切りたい。
- ② 職人不足が問題であり、今後オリンピック関連の現場がスムーズに行くか、業界では悩みである。

HI 开形鋼

- ① 3 月の倉出しは減少したが、前年度比では悪くない。4~6 月期の需要は期待できないので、早急に価格転嫁していく。
- ② 高値玉が入荷してきて、市況は上げざるを得ない状況になってきている。需給に係なく推し進めなければならない。

異形棒鋼

- ① スクラップ市況はピーク感があるものの、製品市況はメーカー姿勢を反映して値上環境継続である。土木関連の小口需要が続いており、当月は在庫販売が一応堅調であった。
- ② 3月は、2月に続き動き有り。在庫も高値に変わる前だったので良かった。4月は、動き横這いながらも在庫高値によりスプレッドが無い。漸進的に上げていきたい。

平鋼

- ① 荷動きは相変わらず小口中心。価格転嫁も遅れている。今後、建築関連に動きが出て来るという声もあり、期待している。

車量開形鋼

- ① 低調な商いが続いており、苦しい状況ではあるが、利益重視の商売をしっかりとしていきたい。
- ② 前年、前月比でやや増加。一部製品の稼働が高く、相変わらずバランスが悪い。例年の繁忙時期にずれが感じられる。
- ③ 下請け仕事のため、数量の好不調の波が激しい。先行き不透明。

鋼管

- ① 荷動きは3月に入り急減。先高感による仮需や年度末駆け込み等もなく、例年の3月に比べても良くない状態だ。

構造用鋼

- ① 需要動向については、自動車関連部品、建設機械関連及び半導体関連は堅調な動きが続いている。ただし、建設機械関連については、夏以降は不透明な見通しとなっている。店売りの動きは変化なく、盛り上がりを欠く状態で推移している。各鉄鋼メーカーの値上げに伴い再販価格の値上げを進めているが、荷動きが振るわない中、完全浸透まではもうしばらく時間がかかるものと思われる。また、一部の電炉メーカーの追加値上げの転嫁については、現段階では難しい状況である。
- ② 各メーカー値上げ後の材料が入荷して来ており、店売りの値上げが急務となっている。競合他社の動きを見ながら価格転嫁を行いたい。

鋼材全般

- ① 3月は稼働日が多く、2月よりは数量、売上とも確実に良い。価格の転嫁についてはメーカーに追いついていない。東鉄が据え置きのため、値上げを顧客にアピールしても販売意欲が出て来ない。4~5月も同じような状況と思われる。
- ② 安値受注のあおりが、最後に加工業者に辿り着く感じがある。ここ20日位は苦しい状況が続いている感じがする。仕事量が少ないのでやむを得ないのか。

その他

<スクラップ>

- ① 2月末から3月中旬にかけてトントン拍子で上昇してきた相場だが、潮目は変わり一気に弱含みに。輸出の不振に加え、国内メーカーにも強気な購買意欲は無く、現状は下落基調。

<金属表面処理加工>

- ① 3月は紐付き、物件物を中心に計画通りの操業となる。スポットの引合いは活発であった発注量が少なく、扱い量が15%減であった。4月は物件物で付加価値の高い加工があり、平均単価アップと、紐付き材が高位安定していることから、高操業が維持出来そうである。